



今年で48回目を迎える男子プロゴルフトーナメント「フジサンケイクラシック」は、9月3日から6日の4日間、富士桜カントリー倶楽部（山梨、パー71、7566ヤード）で開催された。新型コロナウイルスの影響で国内ツアーは中止が相次ぎ、1月に行われた開幕戦のSMB C シンガポールオープン以来、約8カ月ぶりのツアー再開、男子の今季国内初戦となった。

新型コロナウイルス感染症拡大



富士桜CCの福田正人支配人（右）と、和泉秀峰キーパー

ガイドラインののっとり開催



への懸念からギャラリ、選手、大会関係者の安全確保のため、無観客での実施となった。試合を待ちわびていた選手たちの意気込みもあり、見応えのある試合展開となったが、星野陸也が通算9アンダーで並んだ堀川未来夢をプレーオフで下して、大会2度目の優勝を果たし、ツアー通算3勝目を挙げた。今大会は主催のフジテレビがCS、BS、地上波の三つを駆使して生中継するなど、非常に注目を集めた大会となったが、やはりその陰にはコース管理の地道な頑張りが支えていた。

今回、男子ツアー開幕戦を迎えるにあたって、大会前の準備や作業、大会期間中の作業、管理機械、コース課スタッフの問題意識等に

ついて、同CCの福田正人支配人と和泉秀峰キーパーに話を聞いたので紹介したい。

■大会前の作業、準備について

和泉キーパー「毎年、フジサンケイクラシックを当倶楽部で開催していますので、その大会が終わった次の日から常に翌年のトーナメントを意識して、日々自分自身を追い込んで作業していますので、バタバタしたということは特にありませんでした。8月6日に正式に無観客で開催すると発表されましたが、動じないでいつも通りの作業をしていくというスタイルで、しっかりコースセッティングできたいと思います。なお、当倶楽部のコース管理の正社員は6名、アルバイト5名、草取りなど女性のパートさん10名という体制です。当然、コース課内からも『開催するのか、しないのか』という声が多数ありますが、4月の春先から『今年は開催しますよ』ということをお願い聞かせて、日々の作業に注力してきました。開催が決まってきたら福田支配人から『外食、会食、県外の外出は控えるように』

という指示がありました。

毎年トーナメントが終わった時点で来年のセッティングの話をしています。最終日の翌日からそのセッティングに合わせて管理していくので、正式に開催が決まっても慌てることはありませんでしたし、主管（JGTTO）や競技運営（ダンロップスポーツエンタープライズ）から特別な要求はありませんでした。大会前の改修、改造工事については、当倶楽部のオーナーである志村和也が富士桜の設計者でもありますので、戸張捷さんと話をして決まります。その内容は毎年冬季に実施しています。

コース管理の新型コロナウィルス対策として、三密を避けるのが原則ですが、作業上どうしても2、3人での作業となってしまうことも少なくありません。一緒に作業する際はしっかりとマスクをする。戻ってきたら手洗い、うがいの徹底を心掛けていました。当倶楽部では4月から毎朝、出勤する前に検温し、出勤直後にも検温して、コース課に関しては私が確認から作業に出るとい形でした。また、例年ですと、当倶楽部のメンバーさん、学生アルバイトにお願いし

ていますが、コロナの影響で無観客開催となり、今年のボランティアさんの数は大幅に減りました。お互いに誰が感染しているかわからないですので、開催期間中は、コース管理では私以外はクラブハウスには一切立ち寄らせない形で行っていました。トーナメント終了後も一週間は検温及び、シートに外出先の記入を実施し、何かあったらすぐ提出するように、主催者側からの通達がありました。

コースの下見として、大会関係者が毎年3回来るのですが、今年も1回でした。JGTTOの委員長や戸張さんが来るのですが、常にトーナメントをできる状態にしていますので、開幕戦とはいえ特に問題なく終わりました。

その他の大会前の作業といいますが、事前に行うのは樹木の伐採、剪定ですね。トップシーズンには一番できませんので、いつも冬季整備という形で行っています。私が見ながら、グリーンが気象条件を見ながら、グリーンの刈高やコンパクションを変えていました。コンパクションの硬さは常に硬めに、全米プロの硬さに近づけていけるように努力しています。今年は春先からずっと2・

8mmで刈っており、立ち上がりも前年に比べたら良かったと思います。4月中旬頃に一度雪が降ったのが余計でしたね…。やはり芝にとつて、マインナスの気温はかなり精神的にストレスになってきますので苦労しました。それから5月の猛暑。1カ月ぐらい夏日

がきて、6、7月と梅雨で1カ月と20日ぐらいずっと雨でした。今年は7月だけの雨量で880mmを記録しました。そして梅雨が明けて、8月に入るとまた猛暑日で乾燥が続いて大変厳しかったです。夕立もなく、雷もさほどなく、雷が鳴っても雨が降らない状況でした。8月の雨量は44mmだけでした（苦笑）。毎日が異常気象みたいな感じでしたね。8月はベント芝にとつてかなり厳しい時期ですので、当倶楽部はフェアウェイもベントを使用していますので、同じように維持していかないといけない部分は大変苦労しました。各ホールにスプリンクラーはありますが、届かない場所もあります。そこは何

開催期間中の様子



本もホースをつなげて手散水を行
いました。

グリーンは100%のA2で施
工後16年が経ちますが、状態は良
いです。毎年行っている更新作業
(コアリング)を必ず実施して根
の張り、透水をしっかりと取れるよ
うにしています。トーナメント開
催から更新作業するのではなく、
コース管理維持として実施してい
ます。

今年のトーナメントでは主催者
や主管から「重くて速い」「重い
のだけど止まらない」「グリーンを
要求されています。しっかりと
芽数を上げて締める」という意味
だと私は捉えました。仕上げるの
がかなり難しかったですが、その
通り実現できたのではと私は思っ
ています。ラフから打つと止まら
ないけど、フェアウェイから打つ
とピタッと止まるみたいなイメー
ジです」

■大会期間中の作業について

和泉キーパー「通常であれば、月
曜日がマンデートーナメントの予
定でしたが、中止になりましたの
で練習日となりました。朝から夕
方遅くまで通常作業、トーナメン

ト作業を行いました。9月1日の
火曜日は指定練習日で、この日も
朝から夕方まで通常作業(グリー
ン刈り、ティ刈り、フェアウェイ
刈り、アプローチ刈り、カラー刈
ファーストカット、セミラフ等)
ですね。31、1、2日はラフの摺
り合わせという、高さを調節する
刈り込みをスポットで行っていま
した。例年ですと、水曜日(2日)
はプロアマ戦があるのですが、コ
ロナで中止になり、朝からみっち
り作業できました。本来ならプロ
アマ戦の間は少しは休める時間帯
ですので、コース課にとってはこ
の3日間はすごく長く感じました
ね。なお、トーナメント開催期間
中のグリーンの刈高は、2・8mm
で毎日5時〜7時半で刈り、カッ
プ切りは5時〜8時で行っていま
した。フェアウェイは9mm(5連
3台、3連3台の計6台)で毎日
14時半〜18時で作業していました。
その他のセッティングとして、グ
リーンカラー8mm、ティ9mm、フ
アーストカット(セミラフ、ウオ
ークパス)23mm、練習場打席10mm、
そして散水は、必要に応じて降水
量として6mm程度の散水を行いま
した。

セッティングは主催者や主管か
らの要求通りに管理することがで
きたと思います。少しの温度と湿
度、雨量でコンパクションが変わ
ってきますので、この辺の手直し
が特に苦労した部分です。

また人員についてですが、姉妹
コースの富士レイクサイドCC、
敷島CCのコース課、そして当倶
楽部の各部署の従業員、そして3
社ぐらいの取引業者さんが応援に
来ていただいています。基本、姉
妹コース以外の周辺のゴルフ場か
らの協力要請は行わず、コースを
管理しています。合計27人前後で
毎年管理しています。

なにより、コース管理作業にお
いて常に創意工夫していますので、
辛かったということは特にはなか
ったですね。「気象条件に合わせ
て管理している」という点に尽き
ます。毎日ある芝生の顔色を見な
がら、しっかりと管理することを
徹底しています」

福田支配人「大会開催にあたっ
て、プロゴルフトーナメントの運
営の指針となる「日本国内プロゴ
ルフトーナメントにおける新型コ
ロナウイルス感染症対策ガイドラ
イン」にのっとり、できる限りの

感染予防対策を取り、事前に選手、
キャディ、すべての大会関係者に
PCR検査を行いました。

クラブハウス内は選手と大会関
係者のごく一部、当倶楽部の社員
だけしか入れない状況でした。ロ
ッカルームも使用不可で、ハウ
スの外に帯同キャディの小屋を設
置しました。ハウス側としては、
大会開催の約2週間前から、キャ
ディさん達との目土作業に同行し
たりと、コース課とのコミュニケ
ーションもしっかりと取り、意思
疎通も図れていましたし、円滑に
できていたと思います」

■管理機械、散布について

和泉キーパー「トーナメント開
催に向けて購入したというものは
特にありません。昔からある機械
を効率に一人一人が使いこなすこ
とを重視しています。大会期間中
でも通常営業日でも、作業後に必
ず点検、整備、洗浄を心掛けてい
ます。やはり綺麗にしておく、と
いうことが一番大事だと思います。
コース課にはメカニックを1人置
いていますが、各自ができるよう
に、つまり「みんなが整備士」と
いう形を目指し、日々勉強して取

富士桜CCの管理機械



り組んでもらっています。

近年の温暖化や異常気象、雨量も昔とは違いますので、見た目だとわからないですけど、窒素成分を少なくして、土作りを何年かのスパンで変えていこうかと考えています。なお、土壌分析は年に2回、葉身分析は月に1回やるようにしています。どこのゴルフ場もやっていると思いますが、土壌に關してはその結果を見ながらN、P、Kを決めて、施肥・薬剤計画を立てるようにしています。

あとは気象条件に合わせながら、薬剤・肥料散布を行うようにして

います。薬剤の使用はかなり工夫使っています。薬剤も同じ剤ばかり使っていると耐性が付きますので、効かなくなったりということもあります。同じ剤を使わないように、5年、10年前の作業計画書を見ながら作業するようにはしています。剤に固執せずに色々ローテーションしていくと、かなり良いと思います。成分を見ながら時期に合わせて色々な剤を使っています。

散布はすべて直散布でやっていますので、常に芝生を見ながら撒くようにしています。グリーンとティは、タンク車のノズルで撒くようにしています。フェアウェイとアプローチは広いので、クッションで撒いています。ただ、古い機械で撒いていると投下量が違い均等に撒けないので、新しい機

械の導入も視野に入れていきます。トーナメントコースだと、管理機械を同じメーカーに統一するケースも少なくないですが、薬剤と同様に色々な種類の機械を使っています。トーナメント開催において、機械が足りない時は姉妹コースの2コースから借りています。

少し話は変わりますが、スタッフが芝刈りでも散布でも失敗した時に現場で指導・教育し、その場ですぐにメモを取らせるようにしています。事務所に戻ってきてから説明しても覚えません。とにかく失敗したら、すぐに連絡を行い、私が現場に行くというシステムを取っています。トーナメントで毎年問題なく作業できているのは、この部分を徹底しているからだだと思います。当倶楽部としては、通常のコース管理はトーナメントにも通ずるクオリティで、という考えが背景にはありますね。その他、クローズ中に個々の目標(5項目)を立てさせています。当倶楽部のスタッフは機械に關しても、薬剤の撒き方にしても一人一人がすごく積極的に私に質問してきます。やはり、これもトーナメント開催コースの誇りからくる問題意識の

高さだと私は思っています」

■国内男子の開幕戦を終えて

和泉キーパー 「今年でフジサンケイクラシックは48回を迎えました。コロナという状況下ではありましたが、多くの方に支えられて無事終了することができました。関係者の方々の色々な理解があつて開催されたということで、コース課一同、本当に感謝しています。既に来年に向けてコース改修、改造工事を始めており、気持ちは来年に向けています。今回の経験をまた来年につなげていきたいと思っています」



今年の4月に導入したコース課のユニホーム